

(1) 背景と目的

佐世保市は、全国2位（平成28年）の漁獲量を誇る、水産都市です。しかし、平成12年頃から佐世保市の沿岸海域では、海藻が著しく減少する「磯焼け」と呼ばれる現象が顕著化し、漁獲量の低下が懸念されるようになりました。磯焼けは、地球温暖化や栄養塩不足、ウニなどの藻食生物による食害等、様々な要因が複雑に絡み合って発生すると考えられています。

豊かな漁場環境を回復し、水産業の振興を図るため、平成15年頃から九十九島漁協が中心となり、藻場保全活動が実施されています。208 個の島々からなる九十九島の穏やかな海域は、磯焼けによる被害が特に深刻化しており佐世保市は九十九島漁協と連携し、ウニ駆除に特化した藻場造成事業を推進しています。

具体的には、潜水土によるウニの除去や、海藻の生育を促すための母藻（ホンダワラ類）の設置、食害生物から海藻を守るためのウニフェンスの設置等を実施しています。

また、市水産センターと連携し、海藻の提供を受けるなど、より効果的な事業を実施しています。さらに、小学校と連携した水産教室を開催し、アマモの種付け体験や観察を通して、子どもたちの藻場保全の取組みに対する理解と環境保全意識の向上を図っています。これらの活動により、藻場を回復することによって、CO2の吸収源増加による地球温暖化抑制、生物多様性の向上、漁獲量の回復といった効果が期待されています。実際に、造成された藻場6地点を申請した結果、約3ヘクタールの藻場が造成されていることが確認され、J-ブルークレジット10.5tの認証を取得しました。



(2) 令和6年度の主な取り組みと今後の活動計画

カテゴリー	取り組み内容
藻場造成	○佐世保市と活動組織が連携し、藻場の保全活動を推進。 ○潜水土によるウニ駆除 ○ウニフェンスの設置 ○アマモ種の播種 ○母藻 (ホンダワラ類) の設置 ○海藻種苗ブロックの設置      
連携	○九十九島漁協との連携 ○市水産センターとの連携 ○地元小学校との連携   
水産教室	○アマモの種付け、播種体験 ○藻場の観察○環境保全に関する学習   
モニタリング	○藻場面積の測定○ウニの密度調査○魚類等の生物調査  
今後の活動計画	○気候変動に対応するための南方系海藻の導入 ○活動実施による藻場面積の維持・拡大 